

アンケート用紙 ② 円卓会議にあなたのご意見を！

1) テーマ 1:竹田市の地域福祉の現状と課題、そして地域に必要とされている

モノ

- 地域への愛着心→それを引き出す仕組み。人と人を繋ぐ場、繋ぐ人。
情報を発信すること、発信された情報を受信する側の意識。
- 地域の結びつきが大きくなり、みんなが元気になれたらいいという思いが大きくなってきた。独り暮らしの高齢者の支援、育児中の母親の支援が必要だと思う。
- 支援の不足:異種の施設間の交流。高齢者施設と障がい者施設、学校と福祉施設などとの交流と支え合い。
- 決して広くはない地域の中で、知らない施設が多くある。知らない地域、人の暮らしがある。
- 地域で支え合う関係づくり、議論を引き出す場をどう設けるか。
- 公的サービスだけでは独り暮らしの高齢者は自宅では暮らしていけない。自宅で暮らすことが一番の幸せだと思う。
- 自治会活動ができない現状を引き出すことが大切さではないか？
昔の「お茶会」が出来ることが望ましいのでは？
- 一般者の発言の引き出し方、皆の意見を直に聞く。
- 高齢化No.2の市(大分県1位)として老老介護がたくさん始まっている。今後益々“サポートする場”と“サポートする人”が必要となってくる。
- 介護保険会計の予算が毎年伸びていくことに不安を感じる。
様々な健康づくり事業を推進しているが、全市的な広がりに向けて一層の努力をすべきだと思う。
地域の実情は地域住民がよく知っている。各地区にリーダーの育成(健康づくり)などにより市民運動の推進を検討してはどうだろうか？
- 独り暮らしの高齢者が多いが、ほかの人に迷惑をかけないように気を使っている。食事作りが面倒になっている。
- 子供と高齢者が触れ合える場がたくさんあるといいと思う。
- 高齢化、過疎化の中で、お互いに支え合う意識。隣近所に関心を持つ。「自分には関係ない」という意識ではなく、自分の地域を自分たちでなんとかしようという気持ち。皆高齢になっていく。“自分もここで骨を埋める”ということを認識して住み良い地域を作ること。
- 場所づくりが出来上がったので安心。
- 人口の減少に伴い、様々な福祉サービスが受けられないようになると思うので、本当の絆が大切。
- ターンで竹田市に帰ってきて、福祉の散り組みが良くて大変うれしく思った。
- 課題が何か判らなかった。
- 若い人(出身者)が帰って来れる上昇スパイラルの発想力に、基づく農業・林業・福祉・観光を結びつけた施策の実施。及び効果的イベントの開催と都市労働力の活用。
- 課題は「触れ合い」。
- 何か技術をもっている人はたくさんいると思うが、いつどのように利用、発揮していいのかわからない。人材バンクのような登録できるシステムがあるとよいのでは？中・校生などで若者への啓発。意識をもたせる取り組み。通信ネットワークなどの活用。
- その地域の現状とこれからを考える機会(場)を作る。地域で何が出来るかと助かるのか、生きて行けるか

を話し合う。自分にできることを活かせる場はどんなものか話し合う。

○高齢社会である竹田市においては自助・公助はもちろんであるが、共助(互助)が今後は更に重要である
と考える。その為の地域内の繋がり(個々の触れ合い)を日常の中で深めていく取り組みを進めていく方
策を市(行政)や機関が示す必要がある。

○困っている人が誰に相談したらいいのかわからない。

○受給者負担の考え方をもっと進めてはどうか？

(柏木氏の話から)本来望ましい姿ではないが、財政面を考えればしかたないのでは？

○高齢者の孤立。現代世代と同居していても、高齢者に係る時間が少ない。日中(朝食後から夕食まで)の
高齢者の居場所(一人にならないように)。

○地域との繋がりをつくるきっかけ作りが大事だと思う。

○自治会の役割などが困難になりつつある、自治会分解する自治会もあるようであり、自治会の役員であ
る福祉委員が非常に困ることが多くある。

○行政=社協=医療=介護=住民の連携が必要。

住民提案型のサービスや「もの」の在り方があってもよいのでは？

○公的支援だけではまだ不十分だと思う。住民の声を聴くためにアンケートをし、それに対応していく事が
望ましい。

2) テーマ 2: ここに住む私達だからこそできることとは？

○地域の人への声かけ、「困り事があったら声を上げていいんだ」という意識を広める。

子育て、障がい者、高齢者などの現状を発信する。

それぞれの団体、組織がしていることを地域の人へ発信する。

○近所から始まる関係ではあるが、仕事で日中は留守がち。思い切って職場周辺からのお付き合いの方がはじめやすいのかと思う。

○自分の出来ることを少しずつ出し合って何かができればよいと思う。自分から出掛けていく気持ちが大切。自分に出来る事はやりたい。

○地域、行政、医療関係の密なる連携、情報の収集。

○時々見回りをしているが高齢者と出会ったときは“何気なく出会ったふり”をしている。高齢者、独り暮らしの人に関わり合いたくない人も居るので難しい。

○「人」が地域から居なくなっている。「人」をどう埋めていくか急務であると思う。

○「場」と「人」はとても大切だと思う。「人」についても、応援してくれる人が一人居るだけで行動に移しやすい。コーディネーターになる人は「やりたい」と考える人の一歩を横から見守ることやそっと背中を押すこともとても大事だと思う。

○「自分は自分」という考え方ではなく、隣に住む人⇒近くに住む人⇒地域の人⇒…はどんな人なのか？と関心を持ち、積極的にかかわりを持ち繋がっていきこうという気持ちを持つこと。

○昔のように「向こう三軒両隣」。今は車社会で顔を合わすことが少ない。回覧板などで人と合うくらい。隣の人を知り、自分のことも知ってもらいたい。

○人間関係を大切にし、信頼を築くことが成功の鍵である。挨拶がなければ話し合いも始まらない、挨拶が人間関係の構築に必要である。

○住んでいる地域の人と多く出会い、声を聴く。どんな困りごとがあるのか共有する(ニーズをしっかりとらえる)。他地域の情報、制度などに情報を提供する。

○地域の実状(人・土地・課題)などを改めて知る為の活動の展開とそれに基づく連携した持代解決対応。まず、“日頃からの声掛け”から。

○普段会社に勤めていると、住んでいる地域の人との関わりがない。『一日ボランティア』や『お手伝い』とかには少し興味がある程度の人でも参加できるような呼びかけがあった。

○“そこに行けば誰かに会える”を実践するために行政がやるべきとは言わないが、『りんどう』がその場になることを期待している。

○高齢者の対応について、全国のモデルとなる街づくり。「高齢者=好ましくない」という風潮を変える。

○限界集落で対策を考えるにはすでに遅くなったと感じている。高齢化率 90%。場を設ける意識もなくなってきた。集落単位をもう少し大きくしたいと思っている。

○自分達も高齢で生活するに当たり困っていることは理解している。まずは小さなことから出来ることをはじめたい。

3) 「円卓会議」及び公開セミナー全体をとおして。

○住民サイドから支え合いが必要だという発信を大事にしていかなければならないと思った。行政として、住民として支援していくことが出来るかをずっと真剣に考えていきたいと思う。

○このような話は繰り返し聞くことで力になるのではないかと思うようになった。1回聴くだけではその場で終わってしまうように感じる。

○それぞれの立場で竹田の現状説明をしてもらい、これからの必要性をしっかりと考えていきたい。

○寄り合いの場の必要性、仕組みづくりの大切さ、地域の出の役割を持ち、一人一人が生きがいを見つけて生活できると講話で強く感じた。

○マイクからの音声聞き取りにくく、内容が分かりづらかった。(特に前半)

○会議などがある毎に出席すれば、人との繋がりも出来、日頃会わない人の元気確認が出来る。

○講話にあったように共有の場づくりと各関係機関を繋ぐコーディネーターやコーディネート機関が必要ということで、今回暮らしのサポートセンター久住「りんどう」がオープンしたことや、現在セミナーに参加している方の意識も非常に高く、これからの活動に期待している。

最近母が体調を崩し、96歳の祖母と家族の事、子供の事、仕事、家庭の中でも支え合う必要性を痛感している。これから、支え合いの必要な家庭、一人暮らしの方などが増えていく中、「りんどう」のような場が地域にもっと必要だと感じている。

○一人一人のつながりが大切だが、それをまとめるシステムを作ってほしい。自分の役目を見出したい！

○パネラーのみの話し合いのようで、一般対象ではなかったように感じた。パネラーの話は参考にならなかった。声が小さい、やるなら気合を入れて発言してもらわないと参加者に伝わらない。

○終わりにかけてフロアーに意見を求めると人が減っているのでも、最初に組織の代表の方に意見を求めてみてもおもしろいかと思う。特に、分館長などがどう受け取られたか意見を聞いてみたい。

○人を育成していかないといけない。

○多くの機関が集まり、会議が行なわれたことは聴く側にとっても良かった。“円卓”という方式は良いと思う。コーディネーターの吉田氏の進行がとても上手で会議が面白かった。

○“寄り合い”“支え合い”は必要なこと、良いことと判っているが、それをどう実践するのか？

目標をもって進めていくのか？寄り合う中から目標を探していくのか？

寄り合い、支え合いは構えた中からより、自然な肩ひじ張らない中で行われるものだと考える。難しく考えない中で実行するのも手だと思う。

○自分に“今、何が出来るか”、“今、何をすべきか”考えています。セミナー参加してやるべきことを見つけたいと思っている。出来るだけ参加し、意識を高めていこうと思う。

○高齢者だけではなく、それを支えようとする若い人にも意見交換の出来る場が必要だと思う。